

涌谷町

黄金山神社 拝殿

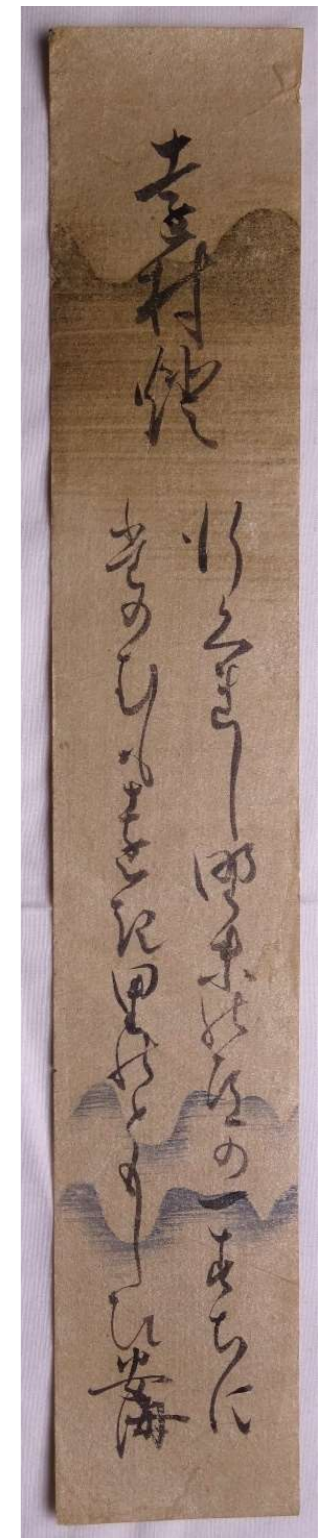


こがねやま えんちょう えんぎしきじんみょうちょう
黄金山神社は、延長5年(927)にまとめられた延喜式神名帳に記
載のある延喜式内社です。天平21年(749)に陸奥国小田郡(涌谷町を
てんぴょう むつのくにおだぐん
中心とする地域)で起きた日本初の産金の時、功労者として記録された
人々の中に「金を出さる山の神主・日下部深淵」がおり、祀る神社は
きん いで やま かんぬし くさかべふかふち まつ
現在の黄金山神社の前身であったと推測されます。
ぜんしん

さんきん
産金以後、この地は人々の記憶から忘れ去られていきましたが、黄
金山神社が人知れず伝えてきました。江戸時代には金華山が産金地で
きんかさん
あるとの説が広まる中、伊勢国白子(現在の三重県鈴鹿市)の国学者で
いせのくにしらこ こくがくしゃ
染型紙を商っていた沖安海がこの地を訪れ、産金地は涌谷であることを
そめかたかみ あきな おきやすみ
唱えました。安海は地域の人々に後世に伝えていくべきと、呼びか

けて、天保8年(1838)に神社の拝殿を再興し
はいでん
ました。

現在も、安海の声で建てられた社殿では、9月にお祭りが開かれるなど、地域の拠り所として信仰を集めています。



▲涌谷に伝わる沖安海が詠んだ和歌